

令和元年度 校内研究 研究構想図

本校の教育目標

- よく考えてやりぬこう
- なかよく助け合おう
- つよい心と体をつくろう

<本校の道徳教育の重点目標>

人とのかかわりを深めていく中で、判断力や共によりよく生きようとする心情や態度を育てる。

【児童の課題】

- 自己肯定感
- 善悪の区別
- 他者理解、信頼関係の構築

【教師の願い】

- 自分の考えをもてる児童
- わかる、できるを実感し、相手に伝えられる児童
- 保護者・地域の願い
- 社会の要請

<研究主題>

自らすすんで考え、判断して、よりよく生きようとする態度の育成
—主体的・対話的で深い学びに導く「特別の教科 道徳」の授業の創造を通して—

目指す児童像

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
自分の思いや考えをもち、あらわすことができる児童	自分の思いや考えを伝え、友達の思いを聞くことができる児童	身の回りの物事についてよく考え、自分の考えをもって行動できる児童	善悪それぞれの選択の意味を考えながら、正しいと思う方を選び、前向きに行動しようとする児童	自分の考えや意見を伝えるとともに、自律的に判断して行動できる児童	自分の思いや考えをもち、正しい判断を普段の生活に生かせる児童

研究のねらい

- 児童を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に導くための教師の指導の手だてを明確にして授業実践を行うことで、目指す児童像や各学年の課題に合わせた考えた指導の手だての工夫についての効果を検証する。

研究の視点

- 資料分析表による「発問」の精選
- 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に導くための手だての工夫
 - ・「発問の工夫」「資料を提示する工夫」「話し合いの工夫」「書く活動の工夫」「表現活動の工夫」「板書を生かす工夫」「説話・まとめの工夫」など